

はくぶつかん

1976. 7. 1 平塚市博物館

—特別展のお知らせ—

テーマ「相模川の生きものたち」
期間 7月20日～8月29日

相模川の川原や流れの中、河口の干潟には多くの鳥・魚・虫などのすみ家となつています。意外なほど豊かな相模川の自然を再発見してみようという特別展です。特別展に関連して、次のような行事が開かれます。



- 映画会 午後2時～3時講堂
7月23日(金)「谷川にすむ虫」
「カニの誕生」
8月20日(金)「アユの一生」
「クモの生活」

- 自然観察会
7月29日 大神～田村付近の川原
8月13日 四之宮～馬入付近の川原
8月26日 相模川河口

先着30名 博物館受付で申し込み

- 講演会「川の鳥・干潟の鳥」
8月8日(日)午後1時～3時
講師 高野伸二先生(日本野鳥の会理事)

(8月行事予定)

—天文映画会「太陽」—

私たちの身近な恒星 太陽についての3本立て。
「太陽のめぐみ」「太陽と放射」「太陽の活動」
• 8月10日(火) 午後2時～3時

—星を見る会—

月と星雲(こと座)の観察を望遠鏡で
• 8月4日(水) 午後6時～8時 先着30名

—自然を調べる会「川原の石を調べよう」—

• 8月1日(日) 田村神川橋川原
• 8月8日(日) 海老名市相模大橋川原
対象 中学生以上で2日間参加できる方15名

—「連続講演会」のお知らせ—

「地方史研究入門」というテーマで、連続して講演会を開催いたします。

- 8月22日(日) 「江戸時代の村」
講師 内田哲夫先生(県立高浜高校教諭)
- 8月29日(日) 「天領と代官」
講師 村上直先生(法政大学教授)
- 9月5日(日) 「農民と訴訟」
講師 青木美智男先生(福祉大学助教授)

- 講演時間 午後1時～3時
- 対象 高校生以上で3日間参加できる方60名
参加希望の方は、往復ハガキで8月18日まで申し込み下さい。なおテキスト代として100円徴収いたします。

【申し込み方法】往復ハガキで平塚市博物館へ
〒254平塚市浅間町12-41

—遺跡に興味ある方へ—

平塚市岡崎小学校庭内で遺跡の発掘調査が、7月20～8月31日まで行なわれます。遺跡の見学会を催しますので、興味ある方は参加して下さい。

- 日 7月31日 8月7・14・21日の4回
- 時間 午後2時～3時
- 場所 岡崎小学校 現地集合、現地解散
- 交通 ふじみの行(1番線) 農協前下車
徒歩5分(右手の台地の上)

声の広場

「土器を作ろう」に参加して

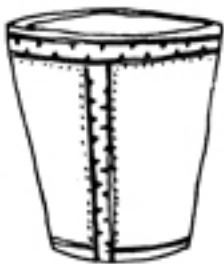
「自然のものを利用して作る」という体験学習シリーズの中で、「土」を使つて6月17・18日の2日間で縄文式土器を作りました。



● 縄文土器は荒けずりで大らかな美しさをもっているようですが、一見無造作と見られるものが、いざ自分で作つてみるととても難しく、何やら現代的で鋭角的なものしか出来ないのが口惜しい。「自分でやってみる」ことを通して縄文土器への興味や細部への観察が進んでいく気がします。

● 一度は作つて見たいと思つておりました土器を手がけて、楽しさと怖さの入りまじつた心地で、土をこね、形を作り上げておきます。興奮しているのでしょうか？昨夜から今朝にかけて家では失敗を繰り返してばかり。子どものように可愛いくなつた土器のことを頭の中でしめておきます。

● 土をこねるといふ経験は子供の頃の感触がすでに薄れた頃でもあり、昔の記憶がよみがえつたようです。今の粘土や化学物質と違つて、手が荒れないのにも驚きました。土にじかに手をつつこんで、くちやくちやくこねるといふのは本当にいい感覚のものですね。



● 私は石器時代が好きです。自然に身をゆだねた生活、なぞをひめて無限に広がつてゆくうずまき文様にひかれます。今それを体験できるという喜び。人間時間の流れを感じない1つの作業に没頭していけるということが必要だと思ひます。

● 何千年も昔の作品が現代の美術品の型と少しも劣らないというより、むしろ勝れているのも初めて知りました。自然の土というものが非常に貴重

で有り、楽しみを教えてくれる事も、色々と御指導いただいて判り、何だか老後の楽しみが1つ増えた感じで楽しくなりました。

● 製作にあつて、8mmを見せていただいた段階では何んとか出来るかしらと思つておりましたら、なかなか思うようにはいかず、何千年も前の人が何如に高い技術をもつていたか知らされました。このめまぐるしい日々の中で、古代人の気分にしぼしぼひたることが出来、又子供達の交流に役立てばと思つております。

● 興味本位にヒマつぶしにやつてきて、思いがけない製作にかかることになつて嬉しくなりました。大きな縄文土器の模造をするなど考えてなくて、それも彼等の実際に使つたような素朴な粘土で…土器の大きさと、粘土の感触が、これらの土器を作つた人へ愛着を感じさせます。それから考古学のおつとりした時間の流れに触れて新鮮な感じがしました。



● 縄文式土器に接し、早や5年経る。日頃報告書や実際の発掘調査において目に触れる土器は所謂考古学としての「遺物」であり、その製作者までも湧出させる感慨は、ともすると忘れがちです。しかしながら今回の体験は直接自分

の手で土器を作るということで、当時の社会の主体者へ接近する新たな問題意識を数多く与えてくれました。

（参加者名） 中戸川君子・中嶋登・原金治・原幸子・大野とく代・梯昭子・寺田なおみ・大沢三重子・二見京子・三村和子・熊沢京子（敬称略）

はくぶつかん VOLI NO 3

昭和51年7月1日 通巻3号

発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41

TEL 0463-33-5111

印刷 平塚市総務部行政課文書係

©1976